



# 永安武学長と女性研究者による 長崎大学のダイバーシティ推進 の現在とこれからの対話

7月5日(金)13時30分～15時、ダイバーシティ推進センターが主宰し、永安学長、森口理事、センターに関わる女性研究者で、本学の女性研究者の活躍、ダイバーシティ推進のこれからについて、自由に議論する懇談会を開催しました。当日は、センター内のプレイルームを会場に、矢内副センター長の司会進行で、和気あいあいとした意見交換の時間となりました。また懇談後は、センターが運営する「文教おもやい保育園」を見学しました。

今回参加していただいた女性研究者の皆さんは、センター内に設置されたダイバーシティ未来構想委員会で活動しています。この委員会は、女性研究者支援のあり方や、女性研究者のネットワークづくりについて議論しています。

## 参加 ※敬称略

永安 武 学長  
森口 勇 理事(総務担当)  
安武敦子 副学長(学生担当)／教授(総合生産科学域(工学系))／ダイバーシティ未来構想委員  
作田絵里 教授(総合生産科学域(工学系))／ダイバーシティ未来構想委員長  
木村眞実 教授(人文社会科学域(経済学系))／ダイバーシティ未来構想委員  
昔 宣希 准教授(総合生産科学域(環境科学系))／ダイバーシティ未来構想委員  
吉田朝美 准教授(総合生産科学域(水産学系))／学長補佐／ダイバーシティ未来構想委員  
門脇知子 副学長(ダイバーシティ担当)／ダイバーシティ推進センター長／教授(生命医科学域(歯学系))  
矢内琴江 副センター長／准教授／コーディネーター(ダイバーシティ推進センター)／ダイバーシティ未来構想委員



# みんなそれぞれの 思いでプラネタリー ヘルスの実現に 取り組んでほしい

**昔:** 私自身、共創プラットフォームに入って色々と研究させていただいています。それで、長崎大学が目指しているプラネタリーヘルスの実現の中で、ダイバーシティ&インクルージョンはどのような意味があるのか、伺いたいです。  
**学長:** 色々な取り組みが全部地球の健康に繋がるだろうと思うので、長崎大学で行われている様々な取り組みの全てがプラネタリーヘルスだと僕は思ってるんだよ。だから、あまり凝り固まらないで、自分なりにプラネタリーヘルスに繋がるものだっていうことを理解しながらやっていけば、なんでもいいんじゃないかなと僕は思っています。

ただ、今回みんながアプローチしやすい目標として、グローバルヘルス、グローバルリスク、グローバルエコロジーという3つの領域を出させていただいた。これをヒントに、皆さん色々な思いでプラネタリーヘルスの実現に

取り組んでもらえればいいと思います。  
国が支援する「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」において、我々が何を期待されているかという、グローバルな人材教育の部分なわけですよ。そして、多様な人材を受け入れる大学こそ、グローバルな人材教育では重要な要素となります。そうすると、当然ダイバーシティという観点から、外国人研究者ばかりでなくて、若い方あるいは女性も含めて様々な研究者をどんどん育成していくということが私たちに期待されています。だから、そういった意味ではこのセンターの役割は非常に大きいと思います。

**門脇:** 学長はご就任時に示されたアクションプランの中でキーワードとして「融合」という言葉を挙げていらっしゃるんですけど、それは研究担当でいらっしゃった時に共創プラットフォームで作られた共同研究、異分野融合などをさらにやっていこうということでしょうか。  
**学長:** 学生たちに自分の講義をしてる時にね、自分の研究も昔から話すようにしてるわけですよ。もちろんちゃんと教えないといけないカリキュラムもある。でもそれ以外の部分でも、興味を持たせる。そのために、自分が面白いからこそ続

けてきた研究について話すことが1番いいだろうと思って。多分皆さんそう思ってやってらっしゃると思うんだけど。だから、研究と教育って表裏一体ですよ。研究の中から新しい教育のカリキュラムが出てくることもあるでしょうし、逆に言えば、教育をやりながら、学生の興味を引き出すのは、やっぱり自分のやってる面白い研究を見せることだろうと思っています。そういう意味で、「研究と学びの融合」っていうちょっと格好つけたキーワードを出したわけです。



# 女性が活躍されるようになって きてるにも関わらず、まだ社会 環境の方が追いついていない



**作田：** 女性研究者の活躍やダイバーシティ推進に関して、長崎大学の現状をどのように考えていらっしゃるかお伺いしたいと思います。女性教員の在籍率で言いますと、長崎大学は女子大学を除くと他の大学の中でもトップランクということが数値としてあがっております。今はそうですけども、今後を見据えて、女性研究者の活躍はどのような方向を目指していくべきとお考えですか。

**学長：** カギは、子育てじゃないかなと僕は思っています。都会に比べても、やっぱりなかなかその辺りの時間の使い方っていうのが、地方に行けば行くほど色々難しいものがあるだ

ろうし。パートナーの方がいらっしゃる、いらっしゃるかもしれないけど、その相手の考え方とかいうのも違うし。

まして、今結婚しない方もいらっしゃるの当然。女性が活躍されるようになってきてるにも関わらず、まだ社会環境の方が追いついていないっていうところはあるでしょうから。

だから今日、保育所を見せてもらうけれども、そういったところの整備っていうのは非常に重要だろうなと本当に前々から思ってますね。やっぱり、環境のいいところに、お子さんを預けて安心して働けるっていうのと、あと、病院の方は病児保育とかの施設

があるからいいけど、ちょっと長く子どもを見てもらうようなことですね。そんなの言ったら、逆に働き方改革に逆行するんじゃないかっていう話、そこはたしかにそうだけど、でも、例えば今日は朝遅く来たけど、夜まで頑張りたいとかいうところもあるだろうから、フレックスでやれるような環境がやっぱりあった方がいいよね。



懇談会終了後、キャンパス内に設置された教職員の子どものための保育園「文教おもやい保育園」を見学しました。

お昼寝の時間と重なったので、子どもたちのかわいい寝顔を見たり、給食の見本を見たり、保育園の畑で取れた野菜を見たりしました。



# 男性育休取得100% 宣言は、当然そういう ものだろうと思って

私も含めて、意識は変えていかなければいけないよねって思うね。

吉田： 先ほども子育てのお話が出たんですけども、昨年度、学長は男性育休取得100%宣言をされました。どのような思いで、この宣言なされたのかお考えをお伺いします。

学長： 前はあんまり注力してなかったんだけど、うちの医局[永安学長は腫瘍外科]でも、男性育休を取得すると言われると、確かにみんなちゃんと取るようになった。どこまで意識が変わったかっていう意識調査はしていないけども、自分も子育てに参加するっていう意識は大事よね。

実はうちは、外科では珍しいんだけど、早くから働き方を自由に、先輩の顔を気にせずに、とにかく子ども第一でっていうことしてきたので。100%宣言というのは、当然そういうものだろうと思って。

吉田： 制度的に男性が育休を取れるようになって、「取ります」と言いつらい環境にある職員の方は多いと思うんですけども、学長から100%宣言が発せられたことで「学長が言っているから取ります」と上司に言いやすくなったのかなっていう風に思います。

木村： 私からは、LGBTQという性の多様性についてですね。長崎市に続いて大村市でもパートナーシップ制度というものが導入されて、同性婚に対する理解が長崎県内で

だいふ広がってきたなと思ってらるんですね。本学を見ても、学生向けに関する配慮はありますけど、教職員に対してどうかというところで、お考えを伺いたいなと思ってます。

例えば、パートナーシップ制度を利用した同性カップルに対して、扶養に入れるとか手当が出るとか、そういった福利厚生の一環として対応していただきたいなという風に思ってます。

学長： 確かに潜在的にもたくさんいらっしゃるでしょうから、当然、そういう制度を導入するっていうことも、我々執行部としては、前向きに考えないといけないことだと思いますね。そのLGBTQの話だけじゃなくてですよ。障害者の雇用の件も含めて、我々としてもやっぱり理解促進をしていかないと難しいね。私も含めて、意識は変えないといけないよねって思うね。

森口理事： できるだけ前向きに進められるようにします。



# ゆくゆくは女性学長が誕生するようになってもらわないといけない



**学長：** 世界ではどんどん女性の社会進出が進んでるでしょう。スポークスパーソンにアメリカも中国も必ず女性が出てきてね。それに比べると日本は全然ね。ぜひああいう風になってもらいたいなと思いますよね。ゆくゆくは長崎大学でも女性学長が誕生するようになってもらわないといけないのかなと思いますね。アカデミアの世界でもこれだけ女性が多くなってくる中で、オランダのライデン大学[長崎大学と国際交流協定等を結んでいます]もね、新しい女性の学長も出ましたし、女性学長がリードする大学は結構多くなってきました。ただ、そのためには、さっき言った環境は大事だよな。

**安武：** 学長もそうですけど、副学長もいろんな先生が経験するといいいんじゃないかな。

**学長：** そうそう。だから、ここにいらっしゃる人たちは、もっと大学マネジメントの方をぜひ、長崎大学をしょって立っていただかないといけない人たちばかりですから。

**森口理事：** でも、そのためには女性

の先生の数をさらに増やさないといけないですよな。

**学長：** 先輩方を見て、私もそういう風になっていくんだっていう、そういう流れがね、できないといけないですよな。

**作田：** 育て上げていくっていうのが1つ課題。

**学長：** そう本当に。

**森口理事：** いわゆるプラネタリーヘルスって、あるテーマがあって、それにみんなが集まって、あるチームを作ると、その中で人材育成もできやすくなるでしょう。自分のテーマで、自分のとこだけでやっちゃうと、なかなか視野の広い人材育成はできないし。ただ一方で、小さいチームになっちゃうと、上に立った人の懐がちっちゃい先生の場合チームメンバーが苦しむので、ある程度緩やかにチームを作るぐらいの方が、もしかしたらいいのかも。そこはなんかちょっと工夫が必要かなと思います。

**学長：** 今森口先生が言われたように、横の繋がりでこう1つのテーマに、みんなで取り組むことですよな。いわ

ゆる学際的とかね、いう、まさに融合とか、色々意味、言い方はあると思う。やっぱりそういう風になっていかない大学は強くないだろうと思いますよな。多分それが長崎大学は意外とできるんじゃないかなと。皆さん、いい人だから。もちろんね、長崎以外から来られた方もいる、いるけども、でも、外から来た人がおっしゃるのは、長崎って連帯感ありますよなっていうよく言われるわけですよな。元々長崎の土地柄がね、国際色豊かとかいうか、逆に言うと、お人よし文化って。受け入れやすいという。それはある意味アドバンテージになるかなと。

色々反対があっても、最後は皆さん仲良くやる。

働き方の部分として、今日、皆さんがおっしゃったことは私も重要だと思っています。働く人の環境はやっぱり大事ですよな。

**門脇：** 今日は先生に来て頂いてそのお言葉を聞いたのはとても心強いです。ありがとうございました。



(文責：矢内琴江)

最後は、全員、大笑いで集合写真を撮影して終了しました。